

教 育 研 究 業 績 書

平成 12 年 6 月 20 日

落 合 勲 印

著書・学術論文等の 名 称	単著 共著 の別	発行又は発表の 年 月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) (1)実践 販売力 - セールス・マーケティングの研究 -	共	昭和 61 年 11 月	神谷書房	セールス・フォース・マネジメント研究会 (編)第 17 章 職業名によるパーソナリティ認 知(10 頁)を担当。職業名を多次元尺度高構 成法 INDSCAL を利用して分析したもの。3 次元解にはほぼ良く当てはまることを示した。 (田中由多加,中村久和,城市富夫,里村忠久,室 尾武久,林道松治郎,筒井正隆,荒木幸三,村田忠 喜,中村寛栄,倉沢直哉,中島光一,澤田良雄,樋 口賢一郎,篠原一壽,赤根祥道,落合勲,金聖一) (A 5 版 152 頁)
(2)放送大学印刷教材 生活のための工学	共	平成 4 年 3 月	財団法人放送大学教育 振興会	野呂影勇(編)の第 11 章 思考の流れをとらえ る(11.6 ~ 11.8)を担当。マン・マシン・コミ ュニケーションの目指す未来のインタ・フェ ースのために,ここでは,交流分析を人間工学 に活用するためにその解説をおこなった。 (野呂影勇,宮本博幸,大野禎康,下出真法,斉藤 進,杉浦精一,飯田一郎,飯塚晴彦,山本敏雄,落 合勲,長沢伸也) (A 5 版 287 頁)
(3)こころの測定法 心 理学における測定の方 法と課題	共	平成 6 年 3 月	実務教育出版	浅井邦二(編)第 3 部 スポーツを測る(19 頁) を担当。指導者の各ポジションに対する認知 構造を明らかにすることが,ゴール型の球技 種目のポジション特性を検討する際の重要な 課題となると指摘し,個人差を考慮した多次 元尺度構成が非常に有効な測定方法となっ ていることを解説した。 (浅井邦二,伊藤秀子,内山勉,大藪泰,小川亮,落 合勲,岸学,黒岩誠,黒須正明,佐々木和義,高田 知恵子,高野隆一,高橋伸子,内藤哲雄,野嶋栄一 郎,林春男,福沢一吉,増井透,宮下彰夫) (A 5 版 408 頁)
(4)知的触発に向かう 情報社会 グループウ ェア維新 bit 別冊	共	平成 6 年 3 月	共立出版	松下温・岡田謙一・勝山恒男・西村孝・山上 俊彦(編)人と機械の付き合い方(14 頁)を担当。 対人行動の分析手法,特に新たな人間とコン ピュータとの関係を構築するために有効であ る交流分析の解説と今後の展望を行った。 (松下温,山上俊彦,國藤進,村永哲郎,関良明,岡 田謙一,西村孝,岸野文郎,竹村治雄,木下研作, 勝山恒男,渡辺理,市村哲,白鳥則郎,布川博士, 落合勲,西山賢一,野中郁次郎,公文俊平,守屋康 正,国友修一,青木喜久,近藤明夫) (B 5 版 318 頁)

著書・学術論文等の 名 称	単著 共著 の別	発行又は発表の 年 月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) (1)横組印刷における 文字配列と読みやすさ	共	昭和 58 年 3 月	早稲田心理学年報 特別記念号	横組印刷文の可読性を文字配列の観点から調べた。可読性チャートを作成し,字間,行間の組合せについての許容範囲を求めた。字間がベタで,行間を 2 文字弱に広げた,24 字/行で 2 段組の配列が最も高い評価を受けた。 (西本武彦,落合勲) pp 1-10.
(2)自己評定と概念評 定による日本語版 ACL の妥当性の検討	共	昭和 61 年 3 月	早稲田心理学年報 第 18 巻	日本語版 ACL(Adjective Check List)妥当性の研究の一環として,自己評定とエリート評定という抽象概念の評定を被検者に行わせて,両評定の特徴を吟味した。平均プロフィールに表れた「エリート」像はわが国における一般的なイメージと極めて良く合致するものであり,この意味で日本語版 ACL の尺度は妥当なものであると考えて良いことが推論された。 (富田正利,西本武彦,落合勲) pp.1-8.
(3)日本語版 ACL の標 準化 - その電算システ ムと応用例 -	共	昭和 62 年 1 月	早稲田大学情報科学研 究教育センター紀要 第 4 巻	Gough, H.G.の ACL (Adjective Check List)の概要を紹介し,その日本語版の標準化の過程と FORTRAN77 による電算システムの概略を述べた。そして,その妥当性の検証のための研究の応用例として,「自己評定」と「理想の異性像」という抽象概念の評定を被検者(大学生)に行わせ,両者のプロフィールの特徴を階層的クラスター分析によって吟味した。結果より現行の日本語版 ACL の尺度が妥当なものであると考えられると考察した。 (富田正利,落合勲) pp.93-107.
(4)対人認知の多次元 的研究	単	昭和 63 年 1 月	早稲田大学人間科学研 究 第 1 巻 1 号	具体的な職業名を刺激人物として評定させたデータを,自己評定のクラスターとの関連において考察した。 pp 63-72.
(5)人間科学部におけ るコンピュータリテラ シー教育 - 理念及びカ リキュラムの構成 -	共	昭和 63 年 12 月	早稲田大学情報科学研 究教育センター紀要 第 8 巻	早稲田大学人間科学部における情報処理教育をコンピュータリテラシー教育と定義した。カリキュラムの内容は,1)タイプ練習,2)日本語ワードプロセッサ,3)図書館情報検索システム,4)システム概説,5)プログラミング入門,6)MUSIC/SP,7)BASIC(文法,プログラミング)から成り立っている。教育内容とその系列化は,コンピュータリテラシーの要素を実現するように配置され,それら妥当性は,1 年生に対するレディネス調査の結果から裏付けられた。 (野嶋栄一郎,石田敏郎,落合勲,小川亮) pp.58-67.
(6)コンピュータタイメ ージの研究 - 縦断的 研究 -	単	平成元年 4 月	早稲田大学情報科学研 究教育センター紀要 第 9 巻	大学の新入生に 57 の形容詞を用いたチェックリストによって,コンピュータイメージを答えさせた。事前・事後調査(1 年間のイン

著書・学術論文等の 名 称	単著 共著 の別	発行又は発表の 年 月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(7)ラグビーポジションの因子分析的研究	共	平成元年 10 月	早稲田大学情報科学研究教育センター紀要 第 10 巻	ターバル)を行って結果を縦断的に分析した。マン・マシン・インターフェースの研究からマン・マシン・コミュニケーションの研究へ転換する時期の到来を指摘し，社会心理学における対人認知の知見や手法を取入れながら，分析を行なった。多次元尺度構成法などの分析により，学科間のコンピュータイメージの変化に差があることを指摘し，個別化の手法の導入の必要性を提言した。 pp.27-35.
(8)対人認知の多次元的研究 - ラグビー選手の自己評価とポジション認知 -	単	平成 2 年 1 月	早稲田大学人間科学研究 第 3 巻 1 号	15 のポジション特性について，因子分析を援用して分析を行なった。因子はそれぞれ，1)『精神(spirit)』，2)『忍耐(patience)』，3)『判断(judgment)』，4)『指示(indication)』，5)『支援(support)』と解釈された。 (落合勲，山本巧) pp 102-108.
(9)集団スポーツにおける指導者の研究 - ラグビーポジション認知構造の研究 -	共	平成 3 年 3 月	スポーツ教育学研究 第 10 巻 2 号	本研究は，ラグビーの熟達した指導者がポジションに対する共通の認知構造として，『布陣(formation)』と『戦術(tactics)』という 2 つの次元を用いている可能性を示唆した。 (落合勲，山本巧) pp 113-122.
(10)多次元尺度構成法によるラグビーポジションの認知構造の研究	共	平成 4 年 3 月	体育学研究 第 33 巻 4 号	ラグビーの 15 のポジションについて，多次元尺度構成法(MDS)の個人差モデルを援用して認知構造の分析を行なった。析出された 2 つの次元はそれぞれ，1)『ゲームメイキングに対する関与』，2)『コンタクトプレーに対する耐性』を示す次元と解釈された。 (落合勲，山本巧) pp 321-335.
(11)ラグビーポジションに対する指導者の認知構造の研究	共	平成 5 年 3 月	スポーツ方法学研究 第 6 巻 第 1 号	全国のラグビー指導者 61 名を被検者として，多次元尺度構成法を援用し，ラグビーの 15 のポジションについて認知構造を分析した。熟達した指導者共通の認知構造として，布陣，戦術，スクラム・ラインアウトという 3 つの次元が析出された。また，クラスター分析によりポジションを 4 つの群に分類した。さらに，指導者の現役時のポジションや指導役割によって，ポジションの認知構造，特に認知構造の複雑さに差が生ずることを示した。専門家のポジション認知構造を指導現場で活用しラグビーの指導者養成課程の教育内容として位置づけることが重要であると指摘した。 (山本巧，落合勲，日比野弘) pp.11-21.

著書・学術論文等の 名 称	単著 共著 の別	発行又は発表の 年 月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(12)グループワークの ためのマン・マシン・ コミュニケーション	単	平成 5 年 8 月	情報処理 第 34 巻 8 号	この論文では、対人行動の基本となる社会心理学や臨床心理学の理論を紹介しマン・マシン・コミュニケーションの立場からグループワークにどうかすかを検討した。特に対人認知，対人魅力，交流分析などを中心に解説した。 pp 1054-1062.
(13)グループウェアの 課題と展望	共	平成 5 年 8 月	情報処理 第 34 巻 第 8 号	本論文は、平成 4 年度前期第 44 回情報処理学会全国大会で行われたパネル討論会の報告である。討論者として、グループウェアのもつ人間的側面を心理学の視点から解説した。特に、この討論会では、これまでのマンマシンインタフェースという考えに対し、コミュニケーションを重視したマンマシンコミュニケーションと言う考えを紹介した。対人認知と交流分析を紹介し、さらに、人間として物づくりの人達にも倫理規準が重要になる事を提言した。 (落合勲，國藤進，阪田史郎，正木茂樹，滝沢誠，松下温) pp.1073-1093.
(14)男子体操競技機械 種目に対する審判員の 認知構造の研究	共	平成 5 年 12 月	スポーツ心理学研究 第 20 巻 1 号	日本体操協会公認審判員の男子体操競技器械種目に対する認知構造を分析し、各器械種目間の関係と審判員の認知構造の個人差を明らかにすることを目的とした。 (落合勲,高岡治) pp 21-28.
(15)早稲田大学体各部 指導者から学ぶ - コ ーチング論の体系化に 向けて -	共	平成 9 年 3 月	早稲田大学体育学研 究 第 29 巻	陸上競技,野球,テニス,サッカー,ラグビー,卓球,レスリング等といった早稲田大学体各部指導者およびOBの方々からそれぞれの競技におけるコーチングの問題点と指導理念などを調査して報告した。 (日比野弘,落合勲,山本巧,石井信輝,大森一伸) pp 81-89.
(16)ラグビーの指導法 に関する研究 - フラ ンス人のラグビーポジ ション認知構造の分析 -	共	平成 10 年 3 月	スポーツ方法学研究 第 11 巻 1 号	フランス人のラグビーポジションの認知構造を多次元尺度構成を用いて分析した。シャンパンラグビーといわれ独自のフランスラグビーの解析を試みた。 (石井信輝,日比野弘,落合勲,山本巧) pp 65-75.
(17)エゴグラムによる 競技スポーツ集団の研 究	単	平成 11 年 3 月	信州短期大学紀要 第 10 巻	勝利志向の極めて高い競技スポーツ集団(W 大学ラグビー部)の特徴を、交流分析に基づくパーソナリティの構成要素とその自我状態を図示する方法であるエゴグラムによって分析した。その結果、競技スポーツ集団の集団エゴグラムは、FC(自由な子供),AC(適応した子供)において、標準化サンプルと有意な差を持っていた。また、過去にキャプテン経験を有する部員は、NP(養育の親)が有意に他の部員よりも高かった。 pp157-162.

著書・学術論文等の 名 称	単著 共著 の別	発行又は発表の 年 月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(18)ラグビーポジションの認知構造に関する日本，イングランド，フランスの高校生を対象にした国際比較研究	共	平成 12 年 1 月	体育学研究 第 45 巻 1 号	ラグビーポジションの認知構造に関して、日本、イングランド、フランスの高校生を対象とし、多次元尺度構成法（INDSCAL）を援用して、国際比較研究を行った。分析の結果、（１）布陣（２）攻撃の継続（３）スクラム・ラインアウト（４）状況判断の各次元を析出した。日本のラグビーポジションに対する認知構造は、イングランドやフランスに対して異なる特徴を持つことが解明され、高校生の段階においてもポジションの認知構造に差が生じることが示された。 (石井信輝,日比野弘,落合勲,山本巧) pp 39-53.
(その他) [翻訳] (1)心理学実験計画入門	共	昭和 63 年 9 月	学芸社	Solso, R.L. & Johnson, H.H. 1984 An Introduction to Experimental Design in Psychology: A Case Approach, 3rd Ed.の邦訳。担当は pp iv-vii,3-44,123-138,170-180,212-241 教師の皆さんへ,第 1,2 章,実験の分析,第 9, 12,15,16 章担当。心理学の初心者に実験計画の基本,剰余変数の統制などを教える入門書,邦書には類書はほとんどない。動物から臨床までにわたる豊富な事例を用いて心理学の実験計画の基本原則を実践的に述べていることに特徴がある。 (落合勲,河合美子,安藤孝敏共訳:浅井邦二監訳) (A 5 版 328 頁)
(2)エイジング大事典	共	平成 2 年 12 月	早稲田大学出版部	Maddox G.L. Eds. 1987 The Encyclopedia of Aging, Springer Publishing Company, Inc.の分担翻訳(エイジング大事典刊行委員会監訳) 加齢がもたらすさまざまな事象を総合的にとらえた画期的な事典。 分担項目: 換語困難 pp.76-77,コンピタンス pp.195-196,能力 p.478,発達課題 pp.487-488.
[調査報告] (1)ニューオフィスシステム(NOS)に関する調査研究報告書(91-シ-1)	共	平成 3 年 2 月	社団法人日本電子工業振興協会	分担執筆(社団法人日本電子工業振興協会編) ヒューマン・インタフェース委員会としての活動報告と平成 3 年度の活動案として『「より便利」から「より好かれる」へ,マン・マシン・コミュニケーションの基本的交流パターンの深層面接』を提案した。 p.182,pp.206-214.
(2)ニューオフィスシステム(NOS)に関する調査研究報告書(92-シ-1)	共	平成 4 年 2 月	社団法人日本電子工業振興協会	分担執筆(社団法人日本電子工業振興協会編) 本調査研究では,熟練した操作者が身に付けているノウハウを活かすことで人間の感性を引き出しやすいコンピュータの開発が可能であるとの観点から,機械への感情の働き掛け,機械からのメッセージに対する人間の受けとめ方に関する研究が必要と考え,対人行動の分析手法,特に交流分析を援用して深層面接を行なった。ここから得られた知見から,新

著書・学術論文等の 名 称	単著 共著 の別	発行又は発表の 年 月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(3)協同作業支援のための情報通信システムの在り方に関する研究会報告書	共	平成 4 年 3 月	郵政省電気通信局	<p>たな人間とコンピュータとの関係を構築するための分析と提案を行った。 p.166, pp.176-203</p> <p>分担執筆（郵政省電気通信局編） 臨床心理学の理論である交流分析の説明とそのマン・マシン・コミュニケーションへの応用例を示した。 pp.14-19.</p>
(4)ニオフィスシステム(NOS)に関する調査研究報告書(93-シ-1)	共	平成 5 年 2 月	社団法人日本電子工業振興協会	<p>分担執筆(社団法人日本電子工業振興協会編) コンピュータ・メッセージの制作において、すべての人のすべての状況やすべての感情にはとうてい無理であろう。そこで、ここでは現在の状況において十分に具現できるものを考えてみた。メーカーは交流分析の考え方を取り入れた観点から 5 種類（C P 優位タイプ，N P 優位タイプ，A 優位タイプ，F C 優位タイプ，A C 優位タイプ）の典型的な人格の特徴（エゴグラム）を持ったメッセージを用意し，ユーザが利用する時の状況や感情，気分，利用目的などによって使用するマシンのメッセージを選択できるようにするのである。このような考え方でメッセージを作成すれば，少なくとも今よりは多様な形で人の感性に応じた形のメッセージなると提言した。 pp.135-140 .</p>
(5)交流分析によるマン・マシン・コミュニケーションの研究 平成 4 年度科学研究費一般研究(C)研究成果報告書		平成 5 年 3 月	早稲田大学人間科学部 野呂研究室	<p>マシンメッセージを分析するために,コンピュータの熟練者に交流分析を援用した深層面接を行った。その結果から,コンピュータの熟練者達のとるマシンとのやりとりは表面のメッセージ上の理性的なやりとりのみならず,自ら「子供」や「親」の状態にメッセージを自分なりに置き換えて使用していることが分かった。現在のコンピュータ教育は理性の部分を強調して行なわれてきているが,この方法では専門的な知識がなければ「使いたくなる」感性を刺激することにはなりえない,むしろ利用すべきなのは,熟練者達が無意識にとる「感性」の部分での交流である。 (野呂影勇,落合勲,井上哲理) (A 4 版 94 頁)</p>
(6)情報処理のパーソナル化に関する調査研究報告書(平成 4 年度) - 未来型知的協調作業環境に係わる技術課題 -	共	平成 5 年 3 月	財団法人パーソナル情報環境協会	<p>分担執筆(社団法人日本電子工業振興協会編) 交流分析に基づく,人に優しいインターフェース開発のために,人間重視のマシンとのコミュニケーションすなわちマン・マシン・コミュニケーションを提言した。ここでは,その基礎理論として重要な交流分析の理論の中で特に,交流パターンの分析について,マシンとの関係から説明した。 pp.55-60.</p>
[学会・シンポジウム] (1)対人認知における	単	昭和 57 年 7 月	日本心理学会第 46 回	<p>刺激人物として具体的な職業名を用いて,対</p>

著書・学術論文等の 名 称	単著 共著 の別	発行又は発表の 年 月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
性差の研究(1)			大会発表予稿集	人認知における性差の要因を個人差モデルの MDS である INDSCAL を援用して分析した。 p.422.
(2)横組印刷における 文字配列と読みやすさ	共	昭和 57 年 9 月	日科技連第 12 回官能 検査シンポジウム	横組印刷文対して，簡略化した一対比較法で 読みやすさの比較判断をさせた。文字配列の 観点から吟味し，可読性チャートを作成した。 よく見られる字間がベタで，行間が 2 分(半 角)あきのものを，さらに読みやすくするに は，行間の方を 2 文字前後まで広げて 2 段組 にするのが現実的であることを示した。 pp.29-34.
(3)パーソナリティ認 知の研究 -職業名を SP として-	単	昭和 58 年 9 月	日本心理学会第 47 回 大会発表論文	具体的な職業名を用いて対人認知の要因を個 人差モデルの MDS である INDSCAL を援用 して分析した。析出された 3 次元解は 1)社 会的望ましさ，2)個人的親しみやすさ，3)活動 性であった。その結果，具体的な職業名を刺 激人物とした場合には，析出された 3 次元解 にほぼ良く当てはまることを示した。 p.797.
(4)ACL 日本語版標準 化の基礎的研究(1)	共	昭和 59 年 10 月	日本心理学会第 48 回 大会発表論文集	Gough, H.G.の ACL の日本語版の標準化の研 究。37 の尺度間の相関係数を吟味し，男・女 のスケール間の相関係数の動向が Gough の 原版(英語版)と非常に良く類似しており，こ の意味において，日本語版も英語版とほぼ同 様の特性を持つと解釈した。 (落合勲，富田正利，西本武彦，神原直幸) p.609.
(5)ACL 日本語版標準 化の基礎的研究(2)	共	昭和 60 年 7 月	日本心理学会第 49 回 大会発表論文集	ACL の日本語版の 300 の形容語の選択頻度 を分析した。サンプル数 2422 名(男 1193 名・ 女 1229 名)であった。男・女の形容語選択頻 度については，かなりの差があり，t 検定に おいて 0.01%水準で有意であった。また，形 容語選択の際に社会的望ましさの影響を受け る可能性があることを示した。 (落合勲，富田正利，西本武彦) p.698.
(6)ACL 日本語版標準 化の基礎的研究(3)	共	昭和 60 年 7 月	日本心理学会第 49 回 大会発表論文	日本語版 ACL を利用し，自己評定とエリート という概念評定をさせ，個人差モデルの MDS である INDSCAL などにより分析したもの。 エリート評定の平均プロフィールは我が国に おける一般的なエリート像と極めて良く一致 していた。 (富田正利，西本武彦，落合勲) p.699.
(7)ACL 日本語版標準 化の基礎的研究(4)	共	昭和 61 年 10 月	日本心理学会第 50 回 大会発表論文集	日本語版 ACL を利用し，理想の異性像とい う概念評定と自己評定をさせ分析したもの。 平均プロフィールを比較すると，「自己評定」 に較べて「理想の異性像」のイメージは極め て特徴的な形を示していた。 (落合勲，富田正利)

著書・学術論文等の 名 称	単著 共著 の別	発行又は発表の 年 月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(8)ACL 日本語版標準 化の基礎的研究(5)	共	昭和 61 年 10 月	日本心理学会第 50 回 大会発表論文集	p.583. クラスター分析を援用し,日本語版 ACL の自 己評定によって分けたクラスターにおいて, 自己評定のパターンが異なっても,概念評定 のパターンは驚くほど似ていることを示した もの。 (富田正利, 落合勲) p.584.
(9)ACL 日本語版標準 化の基礎的研究(6)	共	昭和 62 年 10 月	日本心理学会第 51 回 大会発表論文集	ACL と EPQ を用いて,高校生による父母と 父母自身の評定を分析したもの。父子,母子, 父-娘,父-息子,母-娘,母-息子の関係について, 自己評定と子どもによる評定の一致,不一致 の観点から結果を分析した。 (富田正利, 落合勲) p.557.
(10)レディネスのない 学生を対象とした情報 処理教育カリキュラム	共	昭和 63 年 10 月	教育工学関連学協会連 合第 2 回全国大会講演 論文集	コンピュータに対してレディネスのない学生 に行う情報処理カリキュラムを,レディネス 調査結果から検討したもの。カリキュラムの 導入部分にはキーボード・トレーニングとワ ープロ・ソフトを利用するのが有効であるこ とを示した。 (落合勲, 野嶋栄一郎) pp.463-466.
(11)コンピュータイメ ージの研究 - レディ ネスのない学生につい て -	単	平成元年 2 月	日本教育工学会研究報 告集(学習環境・情報 処理研究会) JET89-1	コンピュータイメージに対する評定を,社会 心理学の対人認知的手法を用いて分析した。 レディネスのない学生のコンピュータイメ ージは,社会に一般的なイメージにステレオタ イプ的に反応する傾向があった。 pp.67-70.
(12)男子体操競技機械 種目に対する審判員の 認知構造の研究	共	平成 2 年 10 月	日本体育学会第 41 会 大会発表論文集	本研究では,熟達した採点のエキスパートで ある日本体操協会公認審判員の男子体操競技 器械種目に対する認知構造を多次元尺度構成 法によって分析した。公認審判員の認知構造 にはほとんど差異がなく,析出された 2 次元 を共に重要視する審判員が多いことが示唆さ れた。 (落合勲, 高岡治) p.601.
(13)球技の総合的ゲー ム分析システム	共	平成 3 年 10 月	日本体育学会第 42 会 大会発表論文集	本研究では,従来のゲーム分析研究の問題点 を考慮し,マウス,バーコード・リーダ及び マーク・シート・リーダを用いながら球技の 総合的なゲーム分析システムを構築するこ とを目的とする。マウスおよびバーコード・リ ーダを用いることの利点は,データ収集の簡 便さとリアルタイム処理による即時的なデー タの活用を可能にすることである。 (日比野弘, 山本巧, 落合勲, 加藤久) p.723. 注:日比野に代り落合が発表
(14)ラグビーのポジシ	共	平成 3 年 10 月	日本体育学会第 42 会	本研究では,経験豊富な指導者のラグビーの

著書・学術論文等の 名 称	単著 共著 の別	発行又は発表の 年 月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
<p>ョンに対する指導者の 認知構造の研究</p> <p>(15)交流分析によるマ ン・マシン・コミュニ ケーションの研究 ～ 交流パターンの分析～</p> <p>(16)交流分析に基づ く、人に優しいインタ ーフェース</p> <p>(17)交流分析によるマ ン・マシン・コミュニ ケーションの研究 - マシンへの働き掛け の分析 -</p> <p>(18) Transactional Analysis for Designing More Pleasant Messages</p>	<p></p> <p>共</p> <p>単</p> <p>共</p> <p>共</p>	<p></p> <p>平成 3 年 10 月</p> <p>平成 4 年 5 月</p> <p>平成 4 年 5 月</p> <p>平成 4 年 9 月</p>	<p>大会発表論文集</p> <p>日本人間工学会関東支 部第 21 回大会講演集</p> <p>日本人間工学会第 33 回大会講演</p> <p>日本人間工学会第 33 回大会講演集</p> <p>Work with Display Units '92</p>	<p>ポジションに対する認知構造を多次元尺度構 成法 (SUMSCAL) によって分析し明らかに することを目的とした。本研究によって、ラ グビーのポジションに対する指導者の認知構 造の特徴は、布陣、戦術及び スクラム・ライン アウトという 3 つの次元で表現することが可 能であることが示唆された。 (山本巧，落合勲，日比野弘) p.781.</p> <p>本報では、VDT 機器作業の熟練者がどのよう にマシンにはたらきかけをしているのか、ま たマシンから発せられるメッセ - ジをどう受 けとめているのかに着目し、VDT 作業者に 対する深層面接を行なった。その結果、現在 の VDT 機器は、様々な人間の感情を喚起す ることが出来ず、人間の感情を一所に収めて しまうことを指摘した。これらの原因はマシ ンの発するメッセ - ジが未熟であったり、情 報が欠如していることである。この解決には、 状況に見合ったメッセ - ジをだすなど、様々 な感情を引きだすという視点が必要であると 結論した。 (武岡元，後藤斉衣子，落合勲，野呂影勇) pp.83-84.</p> <p>コンピュータの能力の増加に伴い、マン・マ シン・インタフェースの研究からマン・マシ ン・コミュニケーションの研究へ転換する時 期がすでに到来している。このような意味で 対人認知や交流分析の考え方をこのマン・マ シン・コミュニケーションの研究に応用する ことは非常に有効性が高いものであると考 える。これらの知見を、もはや単なるマシンで はなくなってきた機械と人間とのコミュニケ ーションに応用することによって、これまで とは違った視点から考察することができるこ とを示唆した。 pp.60-61.</p> <p>本報では、VDT 機器作業の熟練者がどのよう にマシンにはたらきかけをしているのか、ま たマシンから発せられるメッセ - ジをどう 受けとめているのかに着目し、VDT 作業 者に対する面接を行なった。その中からマン からマシンへの働き掛けについて報告した。 (落合勲，野呂影勇) pp.224-225.</p> <p>Many of today's computer messages are blunt or grumble (for example, error messages). Many people do not like such computer messages. Depth interviews were conducted on the private talks and behaviors of skilled computer operators at work from the standpoints of Transactional analysis (TA). The purpose of</p>

著書・学術論文等の 名 称	単著 共著 の別	発行又は発表の 年 月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(19)球技の総合的ゲーム分析システム - 反則評価シートによる第2回ラグビーワールドカップの分析例 -	共	平成4年12月	日本体育学会第43回大会発表論文集	this study was to produce computer messages agreeable to people. (落合勲，野呂影勇) pp.119-120. 球技の総合的ゲーム分析システム構築の第一歩として実施したラグビーの反則分析用の評価シートによる分析例(第2回ラグビーワールドカップの9試合)を紹介し，評価シートの有効性を吟味した。その結果，反則分析用評価シートは，充分に実用に耐える事が明らかになった。 (山本巧，日比野弘，落合勲，加藤久，西貝尚子) p.709.
(20)コーチに必要とされる要因に関する一考察	共	平成5年3月	日本スポーツ方法学会第4回大会大会	実際のスポーツ現場においても「良いコーチ」「悪いコーチ」とよく言われるが，何を基準にして「良い」「悪い」を判断しているのか解明されていない。そこで本研究ではその基準を明らかにするために，一次元尺度構成法を用い，実際に現場で指導しているコーチが必要と考える要因の尺度構成を行った。 (西貝尚子，落合勲，日比野弘) p.33.
(21)PAC 入門 ヒューマンインタフェースの新たなアプローチ	単	平成5年6月	WWDU'93 Tokyo Seminar	社会人向けのセミナーとして，ヒューマンインタフェースの開発・分析に重要である交流分析の基礎理論を解説した。 p.2-9.
(22)グループウェアにいかず交流分析	単	平成5年7月	Groupware'93 シンポジウム	現在では，マシンと仕事をする事が非常に多くなってきている。このような世の中では，感性をどの様に磨くか知的好奇心にどの様に応えるかということが非常に重要である。そのためには，交流分析のような人間関係に関わる理論が重要である。特に，構造分析および交流パターンの分析は，その中でも重要な分析方法であると考えられる。そこで交流分析について交流パターンの分析に重点をおいて解説した。 pp.57-68.
(23)クラスター分析によるコーチに必要とされる要因に関する研究	共	平成6年3月	日本スポーツ方法学会第5回大会大会号	「よいコーチ」と言われるために必要とされる要因を一次元尺度構成法で分析した148個の項目に対しクラスター分析を援用する事によって，さらにその項目の内容を詳細に吟味した。結果として，コーチの努力および個人努力による指導の要因とコーチの位置勢力に頼る指導の要因の2つに大別する事ができることを示唆した。 (西貝尚子，落合勲，日比野弘) p.20.
[雑文] (1)SL-MICRO	単	昭和62年10月	早稲田大学情報科学研	大型計算機の統計パッケージである SPSS に

著書・学術論文等の 名 称	単著 共著 の別	発行又は発表の 年 月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(Statistical Language for Microcomputers)			究 教 育 セ ン タ ー WELCOM NEWS 第 3 号	類似したマイクロ・コンピュータ用の簡易基 礎統計言語 SL-MICRO(Statistical Language for Microcomputers)の紹介。特に,MS-DOS と の間のデータおよび出力結果のやり取りに重 点をおいて説明した。 pp.22-34.
上記記載の分を含め				
著 書	4 編		学術論文	1 8 編
訳 書	2 編		調査報告	6 編
学会・シンポジウム	2 3 編		雑 文	1 編